

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月13日～

先週はじわじわと円安が進みましたが介入警戒感は少しおさまり、荒い動きが落ち着いてきました。介入は何度もできないのと5月1週目にかかなりの規模の介入を行ったので、しばらく介入には動きにくい状況です。

また、米国のイエレン財務長官は、介入はまれな出来事であるべきとの見解を示しており、米国としても頻繁な介入は困るということでしょう。

介入効果と合わせて、4月の米国の雇用統計が悪かったこともあり、ドルの勢いは弱まりつつあります。米国の景気が悪化しつつあるため利下げ期待が再び高まってきました。

今週は米国で消費者物価指数と卸売物価指数が発表されるため注目したいです。

もし、インフレがおさまってきているという結果になれば、景気後退リスクから利下げに動く可能性が出てきます。

欧州は米国よりも一足先の6月に利下げを行うのではという予想が強まっています。

欧州も米国も利下げに動く日本が金融政策を変更しなくてもユーロやドルが弱まっていくために円高の動きになってくるかもしれません。

また、英国やカナダ、オーストラリアなども今年後半には利下げに動く可能性があり、クロス円でも円が買い戻される動きに転じる可能性があるため各国の金融政策の行方が気になります。

介入を行ってから数ヶ月後にトレンドが転換するという動きは過去に何度も見られているので、今回もすぐには無理でも今年の後半には米国の動きから円高にトレンドが変わる可能性があります。中長期的な予想は難しい状況ですが、まずは週足トレンドをしっかりと見ながらトレンドについていくトレードを心がけたいです。

また、3日に発表された雇用統計が悪かったことで、利下げ期待が強まったことで、米国の株価は再び上昇してきています。米国株の動きにも注目したいです。

米国株が上昇している局面では相場全体がリスクオンの雰囲気になりやすく、米国株の動きがクロス円などに影響することもあるため引き続き株価動向も見ていきたいです。

ただし、日本株は長期金利が再び0.9%程度と上昇し始めているため米国株に比べると動きが弱くなっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週のドル/円は日足で見ると順調に陽線が続き、3日の151.8円の安値を底に4円程度上昇してきました。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

上昇のスピードは緩やかですが円安基調が続きそうです。

1時間足などで見て、下がってくるのであればタイミング良く買っていきたいです。

上値は157、158円台では重たくなってくる可能性があるため、あまり欲張らずに利益確定をどこにするかも考えておきたいです。

160円に近づくほど荒い動きが出やすくなるリスクがあるので、動きが荒れてきたら様子見でもいいかもしれません。

下値は155円台前半にサポートがあり、ここを割り込んでも154円あたりにもサポートがあります。

下値が153.8円を維持している間は堅調な動きが期待できそうです。

<気になるクロス円>

クロス円もドル/円が順調に上昇してきていることで、連休中につけた安値を底に上がってきているペアが多く、この流れが今週も続くかどうかポイントになりそうです。

もう一段高は期待できそうですが、高値更新後は利益確定を考えるなど1つ1つの取引を丁寧に行っていきたいです。

長期的には高値圏にあるため一度に大きなポジションを持つよりも小刻みに細かい売買をしていく方が安心です。

ランド/円は4月末につけた高値の8.5円を超えると8.8円あたりが視野に入ってきてそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では1-3月期GDP(速報値)などがあります。

米国では4月卸売物価指数、パウエル・FRB議長発言、4月消費者物価指数、4月小売売上高、5月ニューヨーク連銀製造業景気指数、3月対米証券投資、4月住宅着工件数、5月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、4月鉱工業生産などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで4月消費者物価指数、5月ZEW景況感調査、ユーロ圏で1-3月期GDP(改定値)、3月鉱工業生産などがあります。

ほかには、中国で4月小売売上高、4月鉱工業生産の発表などがあります。